

名誉会員 高橋 茂 博士を偲ぶ

浦城 恒雄

東京工科大学

高橋茂さんは2005年11月22日逝去されました。84歳でした。

高橋さんは1921年4月1日奈良市でお生まれになり、1944年9月慶應義塾大学工学部電気工学科の第1期生として卒業され、卒業の3カ月前に当時の運輸通信省電気試験所(現在は産業技術総合研究所)第5部(後に材料部)に入所されました。1953年論文「電気絶縁材料の誘電特性とその測定法」により慶應より第1号の工学博士が授与されました。

1954年電子部に移られ、ようやく国産化が始まったばかりの点接触型トランジスタを主要素子とする計算機の開発を担当され、1956年ETL MarkIIIを完成。FUJICに次ぐ我が国

では2番目、トランジスタ式では世界で最初の計算機でした。当時の点接触型トランジスタは安定性を欠いていましたが、より安定な接合型トランジスタが出現するとこれを使った計算機の開発に着手され、1957年ETL MarkIVを完成されました。その技術は日本電気、日立などに伝えられ国産電子計算機の立ち上がりに大きな貢献を果たされました。1958年国際計数センタ(ICC)のフェローシップを獲得され、1年にわたってケンブリッジ大学、イリノイ大学などへ行かれ、当時の先端的な計算機に触れて見聞を広められるとともに以前からお好きだった英語力にさらなる磨きをかけられました。

1962年日立製作所に入社され、HITAC 8000シリーズ、初期のHITAC Mシリーズなど主要な製品の計画および開発を担当され、コンピュータ事業の製品計画の責任者として活躍されました。1965年当時の技術提携先であったRCA社との米国フロリダ州での共同開発に日立側責任者として参加されました。またMシリーズ最上位機の米国輸出プロジェクトの交渉責任者として当たられ、1978年以降20年以上続いたPCM輸出事業の出発点を作られました。コンピュータにかける情熱とたゆまぬ勉強によって裏づけされた先見性と英語力により日立のコンピュータ事業の発展に大きな貢献をされました。

1980年コンピュータ事業本部次長を最後に日立を退職され、筑波大学教授に転職されました。1986年には東京工科

大学の設立に参画され、情報工学科主任教授、副学長を経て学長に就任され、新しい学部の創設に尽力されました。1999年学長を辞されたあとは学校法人片柳学園理事(大学担当)になられ、理事長のよき相談相手として大学の改革に取り組みました。大学教授時代には若い学生の教育に熱心に当たられ、数冊の教科書を執筆されました。高橋さんの文章力と執筆速度は日立時代も有名でした。また変化の激しいコンピュータの技術やビジネスの動向に絶えず注目され、知識や情報の取得に努められ、将来動向の的確な知見を維持されていました。

情報処理学会の設立以来、多くの分野で活躍され、理

事、副会長を歴任されました。とりわけ国際標準化関連の活動に熱心に取り組み、多くの国際会議に日本代表として参加され、1988年から6年半にわたり情報規格調査会会長を務められました。今日情報処理関係の国際標準はISOとIECの共管の下に設置された合同技術委員会JTC 1が担当していますが、これは高橋さんの提案をきっかけに実現した仕組みです。また1981年以来歴史特別委員会委員長として「日本のコンピュータの歴史」と「日本のコンピュータ発達史」の取りまとめと執筆をされました。ここ数年間にも数編の論文を書かれました。最後の論文は13ページに及ぶ英文で「The Rise

and Fall of Plug-Compatible Mainframes」と題してIEEE Annals of the History of ComputingのJan-Mar 2005に掲載されました。病魔と闘いながらの執筆でした。

高橋さんの社会人生活は国立研究所、民間企業、大学とほぼ三分されていますがその各々で立派な業績を残されました。転職が比較的少ない日本においてはきわめて稀有のことと思われます。私は日立時代に18年間部下として仕え、再びこの6年余り大学でお世話になり、多くの教えを受けましたが、今は心にぽっかりと大きな穴があった思いです。仕事ではfactを重視し、reasonableという言葉が好きな合理主義者でしたが、仕事を離れば豊かな趣味を持ち、愛妻家であった高橋さんのご冥福を心からお祈り申し上げます。安らかに眠りください。
(平成17年12月5日)



御 略 歴

1921年 4月 1日 奈良市に生まれる
1944年 9月 慶應義塾大学工学部電気工学科卒業
卒業に先立ち、同年6月に運輸通信省電気試験所第5部に入所
1953年12月 工学博士（慶應義塾大学 電気絶縁材料の誘電特性とその測定法の研究）
1954年 7月 電子部に移り、トランジスタを用いた計算機の開発を担当
1951年 3月 電気試験所電子部回路課長
1956年 7月 ETLMarkIIIを完成 続いて57年11月 ETLMarkIVを完成
1962年 4月 日立製作所に入社し、戸塚工場コンピュータ設計部方式課長
1962年 8月 同社神奈川工場設計部方式課長
1965年 2月 開発部長 HITAC 8000 シリーズの製品計画および開発を担当
1971年 2月 副工場長（開発担当）
1976年 8月 同社コンピュータ事業本部次長（製品計画並びに開発担当）
1980年 1月 日立製作所を退職し、筑波大学教授（電子・情報工学系）
1984年 3月 筑波大学を定年退職
1986年 4月 東京工科大学情報工学科主任教授
1989年 8月 東京工科大学副学長
1996年 6月 東京工科大学学長
1999年 5月 東京工科大学学長を辞し、学校法人片柳学園理事に就任
2005年11月22日 逝去（84歳）

1960年 3月 情報処理学会入会
1967年 5月～1969年 5月 情報処理学会理事
1970年 5月～1972年 5月 情報処理学会理事
1979年 5月～1981年 5月 情報処理学会副会長
1981年 7月～2005年 11月 情報処理学会歴史特別委員会委員長
1988年 2月～1994年 7月 情報処理学会情報規格調査会会長
1988年 5月 情報処理学会功績賞
1990年 5月 情報処理学会名誉会員

受賞・栄誉

1968年11月 通商産業省研究表彰（通商産業大臣賞）
1981年10月 情報化功労者表彰（通商産業大臣賞）